

横浜市中央卸売市場経営展望（素案）について
（中央卸売市場費会計及び中央と畜場費会計の会計運営計画（素案）について）

- 「横浜市中央卸売市場経営展望（素案）」（以下「横浜市場経営展望」という。）を策定いたしましたのでご報告します。また、この「横浜市場経営展望」は、「中央卸売市場費会計及び中央と畜場費会計の会計運営計画（素案）」（以下「会計運営計画」という。）としても位置付けます。
- 今後は、素案に基づく市民意見募集を経て、令和2年第3回定例会の常任委員会で原案を報告し、ご意見をいただいたうえで確定します。

1 横浜市場経営展望の概要

- (1) 計画期間 令和2（2020）年度から令和11（2029）年度の10年間
（会計運営計画は、令和2（2020）年度から令和5（2023）年度の4年間）
- (2) 内容 「横浜地域の“食”生活・“食”文化を第一に支える食品流通拠点」を実現させることを10年後の将来像に掲げ、計画期間に市場開設者・場内事業者が具体的に取り組む内容を整理・体系化
- (3) 位置づけ ①平成28年1月に定められた農林水産省 第10次卸売市場整備基本方針により各卸売市場での策定が求められている「経営展望」
②特別会計の健全化のため横浜市中期4か年計画で策定が定められている「会計運営計画」

2 横浜市場経営展望の個別計画（具体的戦略）

消費行動の変化、周辺市場や多様な流通・販売網との競争激化、卸売市場法等の改正、TPPの締結等、市場を取り巻く環境は大きく変化しています。

横浜市場の活性化に向け、今後10年にわたり、市場開設者である本市と場内事業者とが一体となって、市場全体で取り組む具体的戦略を以下のとおり策定しました。

(1) 本場

戦略	主たる取組
【戦略1】集荷・販売力の強化	○産地や量販店・百貨店等と連携した「横浜市場発」の企画・提案等
【戦略2】県内・市内関係者との関係強化	○市内・県内の産地・小売店等による「地域商談会・交流会」等の定期開催等
【戦略3】品質管理水準高度化	○食品衛生法改正に伴う「HACCP」対応や、市場関係者と連携した新型コロナなど感染症等に対する防疫対策の徹底等
【戦略4】流通構造の効率化・高度化・システム化	○共同配送による物流コストの削減や、ICTの活用による効率化の検討等
【戦略5】市場流通環境高度化に向けた設備投資	○屋内荷捌場や冷蔵保管施設等の整備による青果部の機能強化等
【戦略6】市場プロモーションと販促創出	○「食」をテーマとした「マルシェ」イベントなど、市場周辺の販促の創出等
【戦略7】効率的かつ安定的な市場運営体制の整備	○災害時等における生鮮食料品等の安定供給、市場経営の安定化、将来の望ましい市場管理・運営形態の検討等

(2) 食肉市場

戦略	主たる取組
【戦略1】市場関係者と連携した取組の強化	○取引自由度の拡大や新たな収益事業の検討による市場活性化、運営の効率化、集荷対策の強化等
【戦略2】高品質で安全・安心な食肉を供給	○「HACCP」導入支援及び推進や新たな流行性疾患等を念頭に置いた効果的な防疫対策の実施等
【戦略3】食品流通の基幹的インフラとしての機能強化	○衛生管理の高度化などインフラ機能強化、効率的で災害に強いライフラインの整備等
【戦略4】食肉の消費拡大に向けた積極的なプロモーション	○観光・宿泊施設や大規模イベントと連携した市場取扱ブランドの販売促進等

3 事業目標

青果部については、屋内荷捌場や冷蔵保管庫等の増築による機能強化の取組等により、取扱金額の増額目標を設定しました。水産物部と食肉部については、取扱金額等の減少が続いている厳しい状況を踏まえ、現状水準の維持を目標に設定しました。

	基準実績 ※	令和11(2029)年度目標	増減比
青果部	918.7億円	1,000.0億円	+8.9%
水産物部	578.1億円	578.1億円	±0.0%
食肉部	157.6億円	157.6億円	±0.0%

※ 基準実績は、青果部・水産物部はH30（2018）年度、食肉部はH29～R1（2017～2019）年度実績平均

4 中央卸売市場費会計（本場）及び中央と畜場費会計（食肉市場）の会計運営計画について

(1) 収支計画の考え方

施設整備や設備更新に際しては、国の補助や市債の積極的活用を図るほか、本場については、新たな施設の供用に合わせ使用料を徴収し、市債の償還に充当します。

(2) 令和2（2020）年度から令和5（2023）年度の4年間の収支計画

表1 中央卸売市場費会計（本場）

単位（百万円）

区分	年度			
	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
歳入(A)	3,026	3,887	4,291	4,676
使用料及び手数料	1,427	1,427	1,427	1,493
県支出金	-	108	212	265
財産収入	577	577	577	577
諸収入	378	378	374	386
市債	497	1,200	1,525	1,778
一般会計繰入金	148	198	176	176
歳出(B)	3,098	3,938	4,410	4,767
運営費	2,338	2,256	2,263	2,201
施設整備費	533	1,347	1,788	2,102
公債費	225	333	357	462
予備費	2	2	2	2
前年度からの繰越金(C)	72	51	119	91
前年度繰上充用金(D)	-	-	-	-
形式収支(A-B+C-D=E)	-	-	-	-
翌年度へ繰り越すべき財源(F)	-	-	-	-
実質収支(E-F)	-	-	-	-

表2 中央と畜場費会計（食肉市場）

単位（百万円）

区分	年度			
	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
歳入(A)	5,101	3,539	4,058	4,003
使用料及び手数料	199	199	199	199
県支出金	-	-	-	15
財産収入	-	-	-	-
諸収入	693	103	67	101
市債	1,954	380	1,070	1,108
一般会計繰入金	2,254	2,856	2,720	2,579
歳出(B)	5,101	3,539	4,058	4,003
運営費	2,718	2,708	2,434	2,290
施設整備費	1,962	400	1,103	1,138
公債費	420	430	519	574
予備費	1	1	1	1
前年度からの繰越金(C)	-	-	-	-
前年度繰上充用金(D)	-	-	-	-
形式収支(A-B+C-D=E)	-	-	-	-
翌年度へ繰り越すべき財源(F)	-	-	-	-
実質収支(E-F)	-	-	-	-